

静岡市立芹沢銑介美術館 開館 45 周年記念展

街角に息づく



芹沢デザイン

2026.10/10(土) ▶ 12/13(日)

【出品協力】東北福祉大学芹沢銑介美術工芸館、株式会社すずや、日本民藝館
「ニユートーキー—神戸さんちかタウン店壁面影絵」より「中世」(1965)

静岡市立 芹沢銑介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 (登呂公園内) TEL ▶ 054-282-5522
HP ▶ <https://www.seribi.jp> X ▶ @seribi_shizuoka

造る人が側にいてくれば、何でもやりたいですな。
やきものもやりたいし、
それからインテリアなんかもやりたいですし、
インテリア以前の部屋ですね、
あるいは建築とか、
そーいったものもやりたいですな。

「すずあかの人 芹沢銑介」(一九七八年テレビ静岡)

(左から時計回りに)「ざくろ」お品書、「六調子 香吟焼酎」酒瓶、
「シマヤだしの素」景品絵皿、「ざくろ」箸袋、卓布「松竹梅文」
ほか、芹沢銑介の収集品 ※写真はイメージで、実際の店舗とは関係ありません。

芹沢銑介美術館は 開館 45 周年を迎えました

1981 年 6 月 15 日の開館から 45 年。芹沢銑介
の作品と収集品は、美術館の建築とともに、今
も多くの人に愛され続けています。



会期中のイベント

1. 光の館 2026

建築家・白井晟一によって設計された名建築
としても知られる芹沢銑介美術館。夜には外
灯がともし、重厚な石壁をやわらかく照らし
ます。昼間は見ることでできない「夜の石水
館」をお楽しみください。

※石水館・白井晟一が付けた別名

日 時 10 月 18 日 (日)
18:00 ~ 20:00 (最終入館 19:30)
参加費 通常の観覧料が必要です。
申込み 不要です。当日直接ご来館ください。

2. 記念講演会

「デザイナー 芹沢銑介を語る」



学生時代に芹沢銑介の
「御滝図のれん」に大き
な影響を受けたという、
落語家の林家たい平師
匠。芹沢デザインに開ま
れた空間で、その魅力
を語っていただきます。

日 時 11 月 13 日 (金)
18:00 ~ 19:00
(17:30 開場、20:00 閉館)

定 員 70 名 ※多数抽選

会 場 芹沢銑介美術館 D 展示室

参加費 通常の観覧料が必要です。

申込み 上記 QR コードからお申し込みください。
申込期間: 9/15 (火) ~ 10/15 (木)
抽選結果は 10/23 (金) までにご連絡します。



申込はこちら

3. ギャラリートーク

学芸員が展示の見どころを解説します。

日 時 11 月 6 日 (金) 13:00 ~ 14:00
参加費 通常の観覧料が必要です。
申込み 不要です。当日直接ご来館ください。

※イベントの詳細は、ホームページや X をご覧ください。

【開館時間】9:00 ~ 16:30

【休 館 日】毎週月曜日 (10/12、11/23 は開館)、
10/13、11/4、11/24

【観 覧 料】一般 420 円 / 高校生・大学生 260 円 /
小学生・中学生 100 円 / 未就学児無料

(団体割引は 30 名以上でご利用いただけます)

※静岡市内在住の 70 歳以上の方・小中学生 (通学含む) 無料

※障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者 1 名無料

【交 通】

<バ ス> 静岡駅南口 22 番バスのりばから
「登呂遺跡」行き乗車、約 10 分終点下車、徒歩 3 分
<タクシー> 静岡駅南口から約 10 分
<東名高速> 静岡 IC または日本平久能山スマート
IC より約 10 分
<駐 車 場> 登呂公園南側に有料駐車場があります
(400 円 / 1 日)



静岡市立 芹沢銑介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 (登呂公園内) TEL ▶ 054-282-5522
HP ▶ <https://www.seribi.jp> X ▶ @seribi_shizuoka

日本民藝館（東京）

1936 年に民藝運動の拠点として開館した日本民藝館。その門標は芹沢がデザインしたものです。この他に、入館券やロゴマークなどのデザインも手がけました。初代館長である柳宗悦は芹沢に厚い信頼を寄せており、雑誌「工藝」の装幀をはじめ、民藝運動におけるデザインの仕事を数多く任せました。



▲日本民藝館外観 写真提供：日本民藝館



「日本民藝館」門標 ● ※現在は複製を使用。写真提供：日本民藝館

すずや（東京）

1954 年に創業した「民芸茶房すずや」は、「好きなものに囲まれたい」という創業者・鈴木夫妻の思いから始まったお店。芹沢は、のれんや看板、メニューなどをデザインしました。



▲一九六六年の外観 写真提供：株式会社すずや



▲「すずや・寿」の字のれん ●



▲「民芸茶房すずや」メニュー表紙 ●

大原美術館 工芸・東洋館（岡山）

大原美術館創設者である大原孫三郎の長男・大原総一郎は、工芸・東洋館を新設するにあたり内外装のデザインを芹沢に依頼しました。米蔵を改装し、壁、床、照明、展示ケースに至るまでデザイン。3 期にわたり約 10 年をかけて完成しました。各作家への敬意と芹沢らしいこだわりが感じられます。



▲（左）工芸・東洋館 外観 （右）東洋館の階段 写真提供：公益財団法人大原芸術財団 大原美術館



▲鉄製椅子

ニユートーキョー（兵庫）

1965 年、神戸三宮の地下街「さんちかタウン」に開店したビヤホール「ニユートーキョー」のために、芹沢は壁面を飾る影絵を制作しました。「古代」「中世」「現代」の 3 図からなる、芹沢の唯一の影絵作品です。



▲「ニユートーキョー」神戸さんちかタウン店 壁面影絵より「古代」（一九六五）
▲店内（ガーデン風グリルの様子 出典：『食堂建築秀作シリーズ 第一』（ストラン） 柴田書店 一九六八）



皇居 新宮殿（東京）

1968 年、皇居新宮殿の竣工にあたり、芹沢は連翠の間に飾る額絵を制作しました。可動式の壁の両面に、それぞれ春と夏、秋と冬をテーマとした、約 4 メートルにおよぶ額絵が飾られています。

▼「新宮殿のための額絵」（1968）



ざくろ（東京）



▲1964 年に開店した「ざくろ TBS 店」 出典：『民藝』144 号 1964-12 日本民藝協会



▲「ざくろ」行燈下絵 ●



▲「ざくろ」包装紙（部分） ●

若き日には画家を目指していた芹沢銈介ですが、東京高等工業学校（現：東京科学大学）工業図案科に進学してデザインを学び、卒業後は、静岡県立工業試験場や大阪府立商品陳列所に勤めるかたわら、デザイナーとして活動しました。芹沢のデザイン活動は、30 代になって型染を手がけたことで厚みを増し、その個性に磨きがかかっていったといえます。日本を代表する著名な作家たちのブックデザイン。

全国に残した
芹沢デザインの
足跡



● 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館蔵 ● 株式会社すずや蔵 ● 日本民藝館蔵

※ 紹介している写真の中には、現存しない店や、通常公開していない作品もあります。
※ ステンドグラスなど一部の作品は、パネルでの展示となります。

知恩院（京都）

1974 年、浄土宗開宗 800 年記念大法要が知恩院で催されるにあたり、芹沢は御影堂を飾る荘厳布を手がけました。袈裟や散華も芹沢によるものでした。



▲「知恩院御影堂荘厳布デザイン案」（1974） ●



▲知恩院御影堂荘厳布水引下染（1974）

知恩院御影堂荘厳布柱巻下染（1974）▶



銀座たくみ（東京）

地方の民藝品を振興し、現代の生活に普及させるための店として、1933 年に開店しました。



▲「たくみ工芸店」マッチラベル（部分） ▲「倉敷花菱」ラベル



▲現在の外観（看板は芹沢のデザイン） 写真提供：株式会社たくみ

日本航空（東京）



▲「JAL」マッチラベル

案内パンフレット▶「カイロ」、「インド」（1957 ころ） ●



アサヒビール（東京）



▲「アサヒビール アサヒワールド ミツ矢サイダー」包装紙試作 ●

静岡市民文化会館（静岡）



▲静岡市民文化会館中ホール縦横下染（1978）

旧静岡市制 90 周年を記念し静岡市民文化会館が開館するにあたり、芹沢は 6 つの縦横図案を制作しました。

大阪フェスティバルホール（大阪）



▲大阪フェスティバルホール縦横「船渡御」下染（1968）

神戸竹葉亭（兵庫）



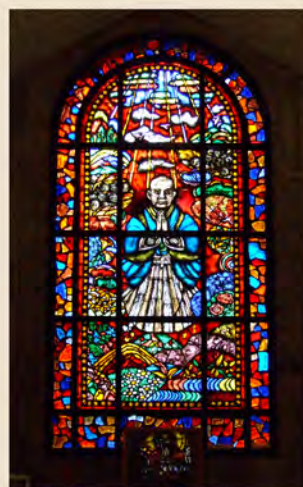
▲竹葉亭のれん「ちくよう」（1965 ころ）

美濃吉（京都）



▲美濃吉のれん（一九六七ころ） ●

石井十次資料館（宮崎）



▲ステンドグラス「石井十次像」（一九七〇）

武蔵野赤十字病院（東京）



▲ステンドグラス「ナイチンゲール」（一九八二） 写真提供：武蔵野赤十字病院

酒悦（東京）



▲「福神漬」包装紙（部分）

増田園（東京）



▲アルミ茶袋「香味増田園の茶」 ▲茶筒用カートン「増田園の新茶」

英君酒造（静岡）



▲吟醸純米 英君」酒瓶

JUN / じゅん（フランス・パリ）

1972 年、シャンゼリゼ通りに日本食レストラン「じゅん」が開店するにあたり、芹沢は店内装飾と使用する器などの選定を一任されました。



▲「じゅん」コースター 貝本（一九七二） ●

▼「じゅん」メニュー表紙（1972）



▲開店当時の外観